



第4会場 ● 4F 大研修室

司 会 / 伊藤 浩規 福岡県教育庁北筑後教育事務所社会教育室主任社会教育主事
吉永 早苗 佐賀県多久市総合政策課男女参画・市民活動推進係

分科会の進め方 10:45~10:50

1 キッズ・サイエンス・クラブの「おや?なぜ?実験・発見・体験」プログラム
ー長与町「子ども科学教室」の教育課程ー 10:50~11:20

桑原 潤(長崎県長与町 長与町「子ども科学教室」実行委員)
江崎 孝(長崎県長与町 長与町「子ども科学教室」実行委員)

科学教室は応募者が殺到して人気のプログラムとなり平成17年以降定着している。運営は専門技術者をはじめ各レベルの学校の教員、教育委員、社会教育指導員等が構成する運営委員会が担当している。目標は好奇心、探究心、自主性などの「科学する心」においている。人気の底辺には、冒険、緊張、挑戦、発見、新体験などへの期待があると想定している。対象者は異学校、異年齢、男女混在型で編成し、会場はエリア近辺の教育施設はもちろん、水産試験場、原子力発電所、三菱重工、火力発電所、私設農場、干拓堤防、ダムなども含んでいる。近年は月1回一年間8回のコースを設定している。

2 家庭教育支援の多角的アプローチ
ー「家庭教育12か条」と「6:30(ロクサンマル)運動」と「生活アンケート」ー 11:25~11:55

吉松 優子(鳥取県北栄町 北栄町教育委員会事務局生涯学習課 主事兼社会教育主事)

家庭における基本的な生活習慣が子どもの学力や規範意識に関係していることは周知の事実となったが、具体的に家庭教育を支援する方策は必ずしも明確ではない。旧北条町時代に、「6:30運動」として朝7時のチャイムを6時30分に変更した。合併後も登校準備に万全を期す外的条件を設定するかたわら、「子育て学習講座」を町内8か所で展開、さらに家庭教育の具体的な指針を提示した「家庭教育12か条」を制定して全戸配付している。家庭には子どもを巡る生活アンケートを実施し、また、親子で月例の目標を確認するための点検欄を付けたカレンダーを作成し、各自の努力を多角的に促すよう計画している。残された課題は実際に子どもが具体的な変容を遂げたのか、評価と測定である。

3 公民館が企画した「放課後子ども教室」のまちづくり交流 12:00~12:30

中野 浩(熊本県熊本市 熊本市教育委員会事務局生涯学習部生涯学習課 社会教育主事)

公民館が企画した子ども教室は学校が広報機能を引き受けたことによって希望者が拡大し、公民館施設の自主講座で学ぶ人々の協力を得て施設利用の「空き時間枠」と自主講座生による「ボランティア講師」を同時に獲得・活用できるようになった。企画・連絡・調整は公民館が受けもっている。結果的に、異世代間の交流が活発になり、子どもは様々な活動の機会に恵まれ、指導者は役立ち感・生き甲斐を見出し、保護者の公民館に対する評価も向上した。いずれは中学生を対象としたアフタースクール・プログラムの実施も検討したい。